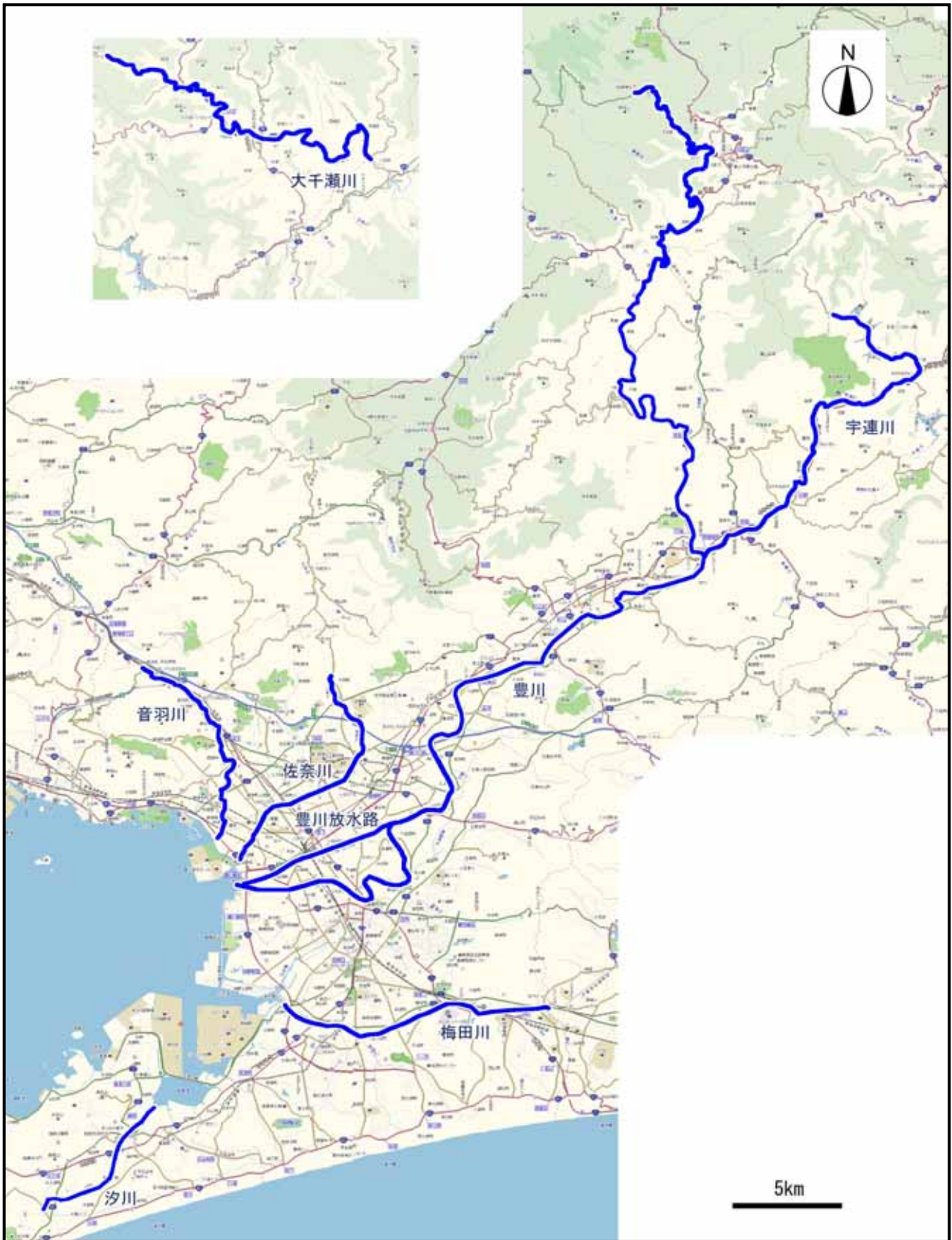


豊川等水域及び天竜川水域における
類型指定を行うために必要な基礎情報

目 次

1	豊川	1
2	宇連川	8
3	豊川放水路	12
4	音羽川	15
5	佐奈川	18
6	梅田川	22
7	汐川	27
8	大千瀬川	30



水質汚濁に係る環境基準の水域類型が指定されている河川
(豊川等水域及び天竜川水域)

1 豊川

1 水域の概況

豊川は、その源を愛知県北設楽郡設楽町の段戸山(標高 1,152m)に発し、山間渓谷を流れ、宇連川を合わせ、豊川市行明で豊川放水路を分派し、豊橋市内を流れ、三河湾に注ぐ、幹川流路延長 77km、流域面積 724km²の一級河川である。河口から新城橋までの 27.6km を国土交通大臣、それ以外の区間を愛知県知事が管理している。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

豊川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 1-1 のとおりである。

表 1 - 1 環境基準類型指定状況 (豊川)

水域名	区間	類型	環境基準点
豊川上流	宇連川合流点より上流	A A	長篠橋
豊川中流	宇連川合流点から豊橋市下条上水道取水地点まで	A	江島橋
豊川下流	豊橋市下条上水道取水地点より下流	B	吉田大橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、概ね 1 mg/l 以下 (75%値) で推移している (表 1-2)。

表1 - 2 近年の水質の状況 (豊川)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
豊川上流 [AA]	長篠橋	H20	<0.5~0.7	0.6	0.6	1 以下	6.5~6.9	6.5 ~ 8.5
		H19	<0.5~1.1	0.7	0.8		6.5~7.3	
		H18	<0.5~1.0	0.6	0.6		6.5~7.5	
		H17	<0.5~1.0	0.6	0.6		7.1~7.7	
		H16	<0.5~1.4	0.7	0.8		6.9~7.5	
豊川中流 [A]	牛淵橋	H20	<0.5~1.2	0.7	0.8	2 以下	7.5~7.9	
		H19	<0.5~1.3	0.7	0.7		7.3~7.8	
		H18	<0.5~1.0	0.6	0.6		6.5~7.5	
		H17	<0.5~1.5	0.7	0.7		7.2~8.0	
		H16	<0.5~1.3	0.7	0.8		7.0~7.7	
	石田	H20	<0.5~1.6	1.0	1.1		7.3~7.7	
		H19	<0.5~1.0	0.8	0.9		7.3~7.7	
		H18	<0.5~0.6	0.5	<0.5		7.3~7.7	
		H17	<0.5~1.0	0.6	0.5		7.3~7.9	
		H16	<0.5~0.8	0.5	<0.5		7.3~7.6	
	江島橋	H20	0.6~1.4	1.0	1.1		7.4~7.7	
		H19	0.6~1.5	0.9	1.1		7.3~7.9	
		H18	<0.5~0.6	0.5	<0.5		7.4~8.1	
		H17	<0.5~0.8	0.6	0.5		7.4~8.1	
		H16	<0.5~0.7	0.5	0.5		7.3~7.7	
当古橋	H20	0.6~1.4	1.0	1.0	7.1~7.5			
	H19	0.5~2.1	0.9	1.0	7.0~7.8			
	H18	<0.5~0.6	0.5	<0.5	7.1~7.6			
	H17	<0.5~0.9	0.6	0.8	7.1~7.4			
	H16	<0.5~0.8	0.6	0.6	6.9~7.4			
豊川下流 [B]	吉田大橋	H20	<0.5~2.0	1.1	1.2	3 以下	6.8~7.5	
		H19	0.6~2.1	1.1	1.3		6.8~7.7	
		H18	<0.5~1.5	0.6	0.6		7.1~7.8	
		H17	<0.5~2.7	0.8	0.9		7.0~7.5	
		H16	<0.5~2.8	0.7	0.8		7.0~8.3	

水域名 [類型]	調査地点	年度	DO (mg/l)			SS (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
豊川上流 [A A]	長篠橋	H20	8.1~13	10	7.5 以上	<1~5	2	25 以下	78~7000	2000	50 以下
		H19	8.5~13	11		<1~4	1		68~7000	1300	
		H18	8.7~13	10		<1~8	2		330~54000	7800	
		H17	7.9~13	10		<1~3	1		490~16000	4500	
		H16	8.9~13	11		<1~16	4		210~7900	3000	
豊川中流 [A]	牛淵橋	H20	8.1~13	10		<1~9	3		110~3500	1500	1000 以下
		H19	8.3~13	10		<1~3	1		330~14000	5500	
		H18	8.6~13	10		<1~3	1		330~3300	1800	
		H17	8.5~13	10		<1~2	1		790~22000	6500	
		H16	8.1~13	10		<1~15	3		330~17000	5500	
	石田	H20	7.9~13	10		<1~2	1		700~1600	1100	
		H19	7.5~13	9.9		<1~2	1		700~9200	3600	
		H18	8.1~12	9.9		<1~7	2		460~49000	17000	
		H17	7.7~13	10		<1~8	2		700~11000	5700	
		H16	7.9~12	9.8		<1~7	2		790~170000	34000	
	江島橋	H20	8.5~13	10	<1~3	1	110~9200	1700			
		H19	8.1~13	10	<1~3	1	33~5400	1400			
		H18	8.5~12	10	<1~2	1	700~17000	6400			
		H17	7.7~13	10	<1~3	2	330~23000	6600			
		H16	8.5~12	10	<1~6	2	330~46000	10000			
当古橋	H20	8.3~13	10	<1~4	2	240~3500	1300				
	H19	6.1~12	9.7	<1~4	1	400~17000	5400				
	H18	8.6~11	9.8	<1~2	2	1700~23000	9400				
	H17	6.5~11	9.5	1~8	3	490~17000	6000				
	H16	7.4~12	9.4	<1~9	3	2200~49000	15000				
豊川下流 [B]	吉田大橋	H20	6.6~12	9.1	5 以上	1~10	4		350~22000	3800	5000 以下
		H19	6.7~12	8.8		<1~8	2		49~13000	3700	
		H18	6.1~11	9.0		1~16	4		790~33000	13000	
		H17	4.6~12	8.6		1~44	6		490~49000	11000	
		H16	6.9~13	9.1		1~13	4		330~240000	32000	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、概ね 0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている(表 1-3)。

表 1 - 3 全亜鉛の状況（豊川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
豊川上流 [A A]	長篠橋	H20	<0.001～0.001	0.001	4
		H19	<0.001～0.005	0.002	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	3
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	4
豊川中流 [A]	石田	H20	0.003～0.025	0.009	4
		H19	<0.001～<0.001	<0.001	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-
	江島橋	H20	<0.001～0.007	0.002	12
		H19	<0.001～0.009	0.002	12
		H18	<0.01～0.02	0.01	12
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	6
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	6
	当古橋	H20	<0.001～0.005	0.002	4
		H19	<0.001～0.001	0.001	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-
豊川下流 [B]	吉田大橋	H20	<0.001～0.028	0.004	12
		H19	<0.001～0.013	0.004	12
		H18	<0.01～0.01	0.01	12
		H17	<0.01～<0.01	<0.01	6
		H16	<0.01～<0.01	<0.01	6

備考 「N」は、測定回数。平成 19 年度から定量下限値が 0.001mg/l となった（以下同じ）。

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については、「豊川上流」では 20～26 程度、「豊川中流」では 26～27 程度、「豊川下流」では 29 程度である。各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については、「豊川上流」では 11～15 程度、「豊川中流」では 15～16 程度、「豊川下流」では 17 程度である。各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については、「豊川上流」では 3～5 程度、「豊川中流」では 5～6 程度、「豊川下流」では 6 程度である（表 1-4）。

表1 - 4 水温の状況（豊川）

水域名	調査地点	年度	水温（℃）			
			最高	平均	最低	N
豊川上流	大名倉橋	H20	19.5	11.9	3.1	12
		H19	21.6	11.8	3.5	12
		H18	20.0	10.9	0.9	12
		H17	20.1	11.2	3.5	12
		H16	20.5	11.1	2.9	12
		平均	20.3	11.4	2.8	-
	鶴淵	H20	20.3	12.5	2.3	12
		H19	23.2	12.9	3.8	12
		H18	20.7	11.9	1.2	12
		H17	21.5	12.0	3.1	12
		H16	23.0	12.0	3.2	12
		平均	21.7	12.3	2.7	-
	布里堰堤	H20	22.6	14.2	5.3	6
		H19	21.2	12.8	4.1	6
		H18	19.0	11.5	1.0	6
		H17	22.0	13.0	3.5	6
		H16	23.0	12.3	4.2	6
		平均	21.6	12.8	3.6	-
	長篠橋	H20	27.5	15.0	4.1	12
		H19	25.0	14.8	4.8	12
		H18	22.8	14.5	5.0	12
H17		27.9	15.5	5.5	12	
H16		24.7	15.2	3.3	12	
平均		25.6	15.0	4.5	-	
豊川中流	牛淵橋	H20	27.3	15.0	3.5	12
		H19	25.5	15.3	5.0	12
		H18	22.8	14.7	5.0	12
		H17	28.0	15.6	5.5	12
		H16	24.0	15.3	3.6	12
		平均	25.5	15.2	4.5	-
	石田	H20	23.9	14.9	4.6	12
		H19	26.7	15.2	3.6	12
		H18	25.0	15.3	6.9	12
		H17	26.4	14.9	3.4	12
		H16	26.9	15.3	5.3	12
		平均	25.8	15.1	4.8	-
	江島橋	H20	24.8	15.7	5.8	12
		H19	27.9	16.4	5.7	12
		H18	26.3	16.0	7.0	12
		H17	27.5	15.4	3.4	12
		H16	28.0	16.1	5.8	12
		平均	26.9	15.9	5.5	-
	当古橋	H20	25.3	15.8	6.3	12
		H19	27.2	16.8	6.7	12
		H18	26.5	16.2	6.6	12
H17		26.9	15.6	3.7	12	
H16		26.9	16.2	5.5	12	
平均		26.6	16.1	5.8	-	
豊川下流	吉田大橋	H20	28.4	16.9	5.9	12
		H19	29.9	17.4	5.9	12
		H18	27.3	17.1	7.4	12
		H17	29.1	16.9	3.6	12
		H16	29.6	17.0	6.3	12
		平均	28.9	17.1	5.8	-

「大名倉橋」、「鶴淵」、「布里堰堤」については国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所の測定データ（「布里堰堤」は奇数月測定）。

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、上流側では石や礫、岩盤で構成されているが、新城市桜淵付近より下流側では主に石で構成され、吉田大橋より下流では主に砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

豊川においては、河口から約 26km に牟呂松原頭首工があるほか、宇連川合流点より上流に長篠堰堤、寒狭川頭首工、横川堰堤、布里堰堤などのダムや堰が設置されている。なお、牟呂松原頭首工及び寒狭川頭首工には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物 A		生物 B									
		アマゴ	サツキマス	ウグイ	オイカワ	フナ類	コイ	ドジョウ	ナマズ	ウナギ	ボラ	テナガエビ	モクズガニ
豊川上流	澄川合流点下												
	大名倉橋												
	鶴淵												
	当貝津川合流点下												
	出合橋												
	布里堰堤												
	長篠堰堤												
	長篠大橋												
豊川中流	牛淵橋												
	桜淵												
	牟呂松原頭首工												
	江島橋												
	金沢橋												
	賀茂橋												
	三上橋												
	当古橋												
豊川下流	吉田大橋												

アマゴとサツキマスは同種で、陸封型（河川残留型）がアマゴで、降海型がサツキマス。サツキマスは孵化 1 年後の秋季に銀化し降海する。その後沿岸域で 2 ~ 3 ヶ月海洋生活し、4 ~ 6 月頃に遡上しはじめ、10 月 ~ 12 月に源流部近くで産卵する。

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

吉田大橋より上流で以下のとおり漁業権が設定されている。

魚種	生物A		生物B							その他
	アマゴ	ニジマス	コイ	フナ	オイカワ	ウケイ	ウナギ	ボラ	テナガエビ	アユ
当貝津川合流点より上流										
布里堰堤～当貝津川合流点										
長篠堰堤～布里堰堤										
吉田大橋～長篠堰堤										

魚類放流場所

布里堰堤から上流でアマゴを、当貝津川合流点から上流でヤマメを、長篠大橋付近及び布里堰堤下流付近でウナギを、松戸橋下流付近及び吉田大橋から当貝津川合流点まででアユを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

豊川における魚類の生息状況について、豊川上漁業協同組合、寒狭川下漁業協同組合、寒狭川中部漁業協同組合、寒狭川上流漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果の概要は以下のとおりである。

- ・豊川最上流部ではイワナが生息している。
- ・アマゴは出合橋（布里堰堤）付近より上流で生息しており、再生産している。
- ・降海したサツキマスの遡上は鮎滝（長篠堰堤の下流）までである。
- ・漁獲対象種としては、布里堰堤より下流ではコイ、ウナギ、オイカワ、アユ、布里堰堤よりも上流ではアマゴ、アユ。
- ・ウナギ、ドジョウが少なくなった。全体的に魚の量や種類が減ってきている。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

2 宇連川

1 水域の概況

宇連川は、北設楽郡設楽町南東部の山中に源を發し、宇連ダムを経て南西へ流下し、新城市長篠付近で豊川に合流する、河川延長約 20km、流域面積約 176 km² の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

宇連川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 2-1 のとおりである。

表 2 - 1 環境基準類型指定状況（宇連川）

水域名	区間	類型	環境基準点
宇連川	全域	A A	鳳来橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、1 mg/l 以下（75%値）で推移している（表 2-2）。

表 2 - 2 近年の水質の状況（宇連川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
宇連川 [A A]	鳳来湖	H20	<0.5~0.9	0.7	0.8	1 以下	7.3~7.8	6.5 ~ 8.5
		H19	<0.5~1.2	0.7	0.7		7.1~7.8	
		H18	<0.5~1.2	0.7	0.6		6.4~7.8	
		H17	<0.5~1.0	0.6	0.5		6.5~7.6	
		H16	<0.5~0.6	0.5	<0.5		6.6~7.3	
	鳳来橋	H20	<0.5~1.7	0.7	0.6		6.6~7.1	
		H19	<0.5~1.0	0.6	0.5		6.5~7.4	
		H18	<0.5~1.2	0.6	0.6		6.6~7.8	
		H17	<0.5~1.0	0.6	0.6		6.2~7.8	
		H16	<0.5~1.1	0.6	0.6		6.8~7.7	
	大野 頭首工	H20	<0.5~0.9	0.7	0.8		7.2~7.8	
		H19	<0.5~1.1	0.7	0.7		7.2~7.6	
		H18	<0.5~1.1	0.6	0.6		6.6~7.5	
		H17	<0.5~1.1	0.6	0.6		6.9~7.5	
		H16	<0.5~1.4	0.7	0.7		6.6~7.7	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
宇連川 [A A]	鳳来湖	H20	7.7 ~ 11	9.2	7.5 以 上	<1 ~ 1	1	25 以 下	4.5 ~ 1400	480	50 以 下
		H19	7.9 ~ 11	9.6		<1 ~ 8	2		2 ~ 24000	4000	
		H18	8.3 ~ 11	9.4		<1 ~ 1	1		20 ~ 170	68	
		H17	8.3 ~ 11	9.4		<1 ~ 4	2		20 ~ 1100	420	
		H16	7.8 ~ 11	9.1		<1 ~ 2	1		18 ~ 17000	3700	
	鳳来橋	H20	8.6 ~ 12	10		<1 ~ 3	1		45 ~ 7900	1600	
		H19	8.8 ~ 12	10		<1 ~ 3	1		68 ~ 4900	900	
		H18	9.0 ~ 12	10		<1 ~ 5	2		50 ~ 17000	2400	
		H17	8.5 ~ 12	10		<1 ~ 3	1		110 ~ 13000	2300	
		H16	8.7 ~ 12	10		<1 ~ 2	1		130 ~ 9200	3400	
	大野 頭首工	H20	8.5 ~ 11	9.8		<1 ~ 5	2		220 ~ 5400	1600	
		H19	8.0 ~ 12	10		<1 ~ 3	1		790 ~ 35000	7000	
		H18	8.1 ~ 11	9.7		<1 ~ 1	1		330 ~ 7000	3200	
		H17	8.0 ~ 12	10		<1 ~ 3	1		390 ~ 13000	5400	
		H16	8.4 ~ 12	10		<1 ~ 5	2		1700 ~ 7900	4000	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている (表 2-3)。

表 2 - 3 全亜鉛の状況 (宇連川)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小 ~ 最大	平均	N
宇連川	鳳来橋	H20	<0.001 ~ 0.002	0.001	4
		H19	<0.001 ~ 0.001	0.001	4
		H18	<0.01 ~ <0.01	<0.01	4
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については23～29 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については15～18 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については、5～7 程度である（表2-4）。

表2-4 水温の状況（宇連川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
宇連川	鳳来湖 （表層）	H20	30.5	19.1	9.5	12
		H19	28.0	17.8	5.5	12
		H18	27.0	16.9	8.4	12
		H17	29.9	17.8	5.5	12
		H16	28.4	18.6	7.6	12
		平均	28.8	18.0	7.3	-
	宇連ダム 下流	H20	20.1	13.4	4.9	12
		H19	21.8	14.6	6.6	12
		H18	21.2	14.4	6.2	12
		H17	29.0	17.6	7.9	12
		H16	27.3	17.6	4.9	12
		平均	23.9	15.5	6.1	-
	鳳来橋	H20	24.2	15.2	6.6	12
		H19	22.6	15.0	6.0	12
		H18	21.3	14.4	5.8	12
		H17	24.4	14.9	5.5	12
		H16	24.3	16.0	6.9	12
		平均	23.4	15.1	6.2	-
	大野 頭首工	H20	21.6	15.0	5.9	12
		H19	21.0	14.7	5.0	12
		H18	22.2	15.1	5.5	12
H17		24.3	14.8	5.0	12	
H16		23.6	15.5	5.8	12	
平均		22.5	15.0	5.4	-	

「宇連ダム下流」については水資源開発機構豊川用水総合事業部の測定データ。

4 河床構造等

（1）河床構造

河床は、主に岩盤や石で構成されている。

（2）主な河川構造物

宇連川においては、大野頭首工と宇連ダムが設置されている。なお、大野頭首工には魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物A	生物B								
		アマゴ	ウグイ	オイカワ	フナ類	コイ	ドジョウ	ナマズ	トウヨシノボリ	ウナギ	スジエビ
宇連川	鳳来橋										
	柿平橋										
	宮下橋										
	養乙女橋										
	桐谷橋										
	黄柳川合流点下										
	文化橋										
	豊川合流点上										

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

宇連川全域で漁業権（アマゴ、ニジマス、コイ、フナ、オイカワ、ウナギ、アユ）が設定されている。

魚類放流場所

養乙女橋付近でアマゴを放流している。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

宇連川における魚類の生息状況について、宇連川漁業協同組合、三輪川下漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果の概要は以下のとおりである。

- ・アマゴの生息下限は養乙女橋であり、それよりも上流で再生産している。
- ・降海したサツキマスの遡上は大野頭首工までである。
- ・全体的に魚が少なくなった。昔はオイカワやカワムツがたくさんいた。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

3 豊川放水路

1 水域の概況

豊川放水路は、豊橋市行明において、豊川より分派し、豊橋市、豊川市、宝飯郡小坂井町を流れて三河湾に注ぐ河川延長約7kmの一級河川である(国土交通大臣が管理)。豊川本川下流部の治水対策のための放水路として建設され、昭和40年度に完成した。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

豊川放水路における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表3-1のとおりである。

表3-1 環境基準類型指定状況(豊川放水路)

水域名	区間	類型	環境基準点
豊川放水路	全域	C	小坂井大橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、平成18年度に環境基準を達成しなかったが、それ以外は概ね1~4mg/l(75%値)で推移しており、環境基準を達成している(表3-2)。

表3-2 近年の水質の状況(豊川放水路)

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
豊川 放水路 [C]	小坂井 大橋	H20	0.8~ 11	3.2	2.9	5 以下	7.1~ 8.8	6.5 ~ 8.5	3.6~ 18	8.8	5 以上	1~ 27	5	50 以下
		H19	0.9~ 42	5.4	2.7		6.9~ 7.9		5.3~ 15	8.8		1~ 95	11	
		H18	0.6~ 11	3.7	5.7		7.0~ 8.5		6.0~ 16	9.5		3~ 30	12	
		H17	<0.5~ 9.5	3.0	3.5		7.1~ 8.1		5.4~ 12	8.6		1~ 21	9	
		H16	<0.5~ 18	2.8	1.4		7.0~ 8.2		4.3~ 15	8.8		1~ 26	9	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、概ね 0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている(表 3-3)。

表 3 - 3 全亜鉛の状況（豊川放水路）

水域名 [類型]	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
豊川 放水路	小坂井 大橋	H20	0.002～0.012	0.006	12
		H19	0.002～0.031	0.009	12
		H18	<0.01～0.01	0.01	12
		H17	-	-	-
		H16	-	-	-

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 29 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については 6 程度である（表 3-4）。

表 3 - 4 水温の状況（豊川放水路）

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
豊川 放水路	小坂井 大橋	H20	30.7	18.5	5.1	12
		H19	28.0	18.3	6.9	12
		H18	28.1	18.3	7.5	12
		H17	29.9	17.0	2.4	12
		H16	30.0	18.6	5.9	12
		平均	29.3	18.1	5.6	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に石や砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

豊川放水路においては、豊川との分流点に分流堰が設置されているが、魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物 B		
		ウナギ	ボラ	テナガエビ
豊川放水路	小坂井大橋			

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

4 音羽川

1 水域の概況

音羽川は、その源を旧音羽町（現在の豊川市）の五井山に発し、谷水を合わせながら東流した後、山陰川を合わせ流向を南に転じ、白川と合流した後、三河湾に注ぐ河川延長約 12km、流域面積約 64km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

音羽川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 4-1 のとおりである。

表 4 - 1 環境基準類型指定状況（音羽川）

水域名	区間	類型	環境基準点
音羽川	全域	C	剣橋

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、2 mg/l 以下（75%値）で推移している（表 4-2）。

表 4 - 2 近年の水質の状況（音羽川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
音羽川 [C]	剣橋	H20	<0.5 ~ 3.4	1.1	1.3	5 以下	6.3 ~ 6.9	6.5 ~ 8.5	7.7 ~ 13	10	5 以下	3 ~ 11	6	50 以下
		H19	0.6 ~ 3.5	1.7	1.7		6.2 ~ 8.6		8.3 ~ 16	11		1 ~ 20	6	
		H18	0.6 ~ 2.7	1.0	0.9		6.6 ~ 7.3		9.0 ~ 12	10		1 ~ 24	5	
		H17	0.7 ~ 2.4	1.5	1.6		6.7 ~ 7.5		8.2 ~ 11	9.8		1 ~ 11	6	
		H16	<0.5 ~ 3.6	1.4	1.3		6.7 ~ 7.3		8.2 ~ 12	10		3 ~ 13	8	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、0.01mg/l 以下で環境基準値を下回っている（表 4-3）。

表 4 - 3 全亜鉛の状況（音羽川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/L)		
			最小～最大	平均	N
音羽川	剣橋	H20	0.002～0.010	0.005	4
		H19	0.002～0.005	0.003	4
		H18	<0.01～<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01～0.01	0.01	4
		H16	<0.01～0.01	0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近 5 年間の平均値については 27 程度で、各年度の平均水温の最近 5 年間の平均値については 18 程度、各年度の最低水温の最近 5 年間の平均値については 10 程度である（表 4-4）。

表 4 - 4 水温の状況（音羽川）

水域名	調査地点	年度	水温 ()			
			最高	平均	最低	N
音羽川	剣橋	H20	28.7	18.0	11.3	12
		H19	26.0	17.3	9.8	12
		H18	25.8	17.4	9.3	12
		H17	28.1	17.3	9.0	12
		H16	26.0	17.4	8.1	12
		平均	26.9	17.5	9.5	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、河口部においては砂で構成されている部分もあるが、主に石や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

音羽川においては、多くの落差工や取水堰が設置されているが、最下流の落差工のみで魚道が設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物B									
		ウグイ	オイカワ	フナ類	コイ	ドジョウ	ウナギ	ボラ	スジエビ	テナガエビ	モクズガニ
音羽川	長沢橋										
	御油大橋										
	為当橋										
	永久橋										

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしてない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

5 佐奈川

1 水域の概況

佐奈川は、豊川市北部の山中に源を發し、南方へ流下し三河湾に注ぐ、河川延長約 14km、流域面積約 15 km²の二級河川である（県知事が管理）。

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

佐奈川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 5-1 のとおりである。

表 5 - 1 環境基準類型指定状況（佐奈川）

水域名	区間	類型	環境基準点
佐奈川	全域	D	柳橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、平成 16 年度に環境基準を達成しなかったが、それ以外は概ね 2 ~ 4 mg/l(75%値)で推移しており、環境基準を達成している(表 5-2)。

表5 - 2 近年の水質の状況（佐奈川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/L)		
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
佐奈川 [D]	荒古橋	H20	<0.5~ 5.6	2.0	2.0	8 以下	6.9~ 7.8	6.0 ~ 8.5	7.9~ 11	9.4	2 以上	<1~ 7	3	100 以下
		H19	<0.5~ 3.3	1.8	2.2		6.8~ 7.8		7.7~ 12	9.6		<1~ 16	4	
		H18	0.7~ 3.9	1.6	1.9		6.6~ 7.3		7.8~ 11	9.4		<1~ 12	4	
		H17	0.9~ 6.1	2.5	3.4		6.9~ 7.9		7.8~ 10	9.3		<1~ 15	6	
		H16	1.0~ 7.2	2.7	3.3		7.0~ 7.5		8.7~ 12	9.7		2~ 17	5	
	柳橋	H20	0.8~ 13	3.0	2.4		6.4~ 7.9		8.0~ 12	9.6		1~ 42	6	
		H19	0.9~ 15	4.2	3.5		6.4~ 8.8		6.6~ 14	10		1~5	3	
		H18	1.4~ 4.4	2.7	3.2		6.8~ 8.4		8.2~ 12	9.7		<1~ 10	3	
		H17	1.2~ 6.5	3.6	4.2		7.2~ 8.6		7.9~ 11	9.5		1~ 20	6	
		H16	1.2~ 44	8.5	8.5		6.4~ 8.2		8.0~ 10	9.1		2~6	4	
	浜田橋	H20	<0.5~ 4.3	1.5	1.6		6.5~ 7.3		5.7~ 9.8	7.8		<1~ 8	3	
		H19	1.5~ 12	3.8	3.0		6.5~ 7.4		5.3~ 10	7.0		<1~ 8	4	
		H18	0.6~ 6.8	2.1	2.5		6.6~ 7.3		4.9~ 8.1	7.0		1~ 11	3	
		H17	0.8~ 6.2	2.6	3.0		6.8~ 7.4		4.0~ 8.9	7.1		1~9	5	
		H16	1.1~ 13	3.5	3.2		6.5~ 7.4		4.2~ 9.4	6.9		2~ 27	7	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、柳橋で平成17～19年度に環境基準値を超過しているが、それ以外は環境基準値以下である（表5-3）。

表5-3 全亜鉛の状況（佐奈川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛（mg/l）		
			最小～最大	平均	N
佐奈川	柳橋	H20	0.012～0.047	0.027	4
		H19	0.021～0.038	0.032	4
		H18	0.01～0.08	0.05	4
		H17	0.02～0.08	0.04	4
		H16	0.01～0.05	0.03	4
	浜田橋	H20	0.001～0.007	0.003	4
		H19	0.007～0.019	0.015	4
		H18	<0.01～0.04	0.02	4
		H17	<0.01～0.05	0.02	4
		H16	<0.01～0.01	0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については27～29 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については16～20 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については5～11 程度である（表5-4）。

表5-4 水温の状況（佐奈川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
佐奈川	荒古橋	H20	26.6	15.7	6.5	12
		H19	25.5	15.0	4.0	12
		H18	26.6	16.2	5.0	12
		H17	27.8	16.1	4.8	12
		H16	26.6	16.1	2.6	12
		平均	26.6	15.8	4.6	-
	柳橋	H20	30.4	19.8	11.0	12
		H19	27.2	19.4	12.5	12
		H18	28.0	19.8	10.0	12
		H17	30.0	20.3	11.5	12
		H16	28.2	20.6	11.5	12
		平均	28.8	20.0	11.3	-
	浜田橋	H20	28.0	18.5	9.0	12
		H19	27.8	19.3	8.8	12
		H18	26.7	18.4	10.2	12
		H17	28.8	18.5	8.7	12
		H16	27.4	18.8	9.5	12
		平均	27.7	18.7	9.2	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫や砂で構成されている。

(2) 主な河川構造物

佐奈川においては、多くの落差工や護床工が設置されているが、魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物 B				
		オイカワ	フナ類	ナマズ	スジエビ	モクスガニ
佐奈川	東名高速道路下					
	下佐脇橋					

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしてない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

佐奈川における魚類の生息状況について、赤塚山公園ぎょぎょランドからヒアリングを行った結果の概要は以下のとおりである。

・佐奈川にはアマゴは生育していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物 A 及び生物 B の魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

6 梅田川

1 水域の概況

梅田川は、豊橋市東部に源を發し、西方へ流下し三河湾に注ぐ、河川延長約 14km、流域面積約 87 km² 二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

（1）水質汚濁に係る環境基準類型指定状況梅田川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 6-1 のとおりである。

表 6 - 1 環境基準類型指定状況（梅田川）

水域名	区間	類型	環境基準点
梅田川	全域	C	御厩橋

（2）水質の汚濁の状況

BODについては、飛越橋では環境基準値を超過しているが、それ以外は5 mg/l 以下（75%値）で推移しており、環境基準値を下回っている（表 6-2）。

表6 - 2 近年の水質の状況（梅田川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ～ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ～ 最大	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値
梅田川 [C]	飛越橋	H20	2.6～ 19	6.7	8.0	5 以下	6.8～ 7.7	6.5 ～ 8.5	4.3～10	8.7	5 以上	3～ 13	6	50 以下
		H19	<0.5 ～10	4.9	5.1		6.9～ 8.1		5.8～11	8.5		<1～ 10	5	
		H18	0.9～ 8.3	4.8	6.6		7.1～ 8.7		6.3～11	8.5		<3～ 8	5	
		H17	2.4～ 17	7.7	7.4		7.0～ 8.5		2.4～10	8.1		3～ 17	7	
		H16	1.3～ 21	7.1	7.9		6.4～ 7.8		4.3～11	8.8		3～ 14	7	
	沢渡橋	H20	1.3～ 8.3	3.9	4.5		6.8～ 7.3		7.2～11	9.1		2～ 7	4	
		H19	1.2～ 6.8	3.1	4.3		6.5～ 7.5		6.7～12	8.7		3～ 18	6	
		H18	1.5～ 4.4	3.0	3.9		7.0～ 7.5		7.0～10	8.5		2～ 9	4	
		H17	1.7～ 6.2	3.8	4.7		7.0～ 7.3		2.4～10	8.6		2～ 20	6	
		H16	1.9～ 8.2	3.9	4.7		6.9～ 7.5		7.5～12	9.6		2～ 7	5	
	御厩橋	H20	0.9～ 5.6	3.5	4.6		6.9～ 8.2		5.6～12	9.7		1～ 7	4	
		H19	<0.5 ～6.1	2.7	3.1		6.9～ 8.3		6.1～12	9.7		<1～ 14	6	
		H18	0.8～ 8.1	3.2	3.5		7.2～ 8.5		6.7～13	9.7		<1～ 8	4	
		H17	2.0～ 15	4.5	4.9		7.2～ 9.0		2.4～14	11		3～ 10	6	
		H16	1.6～ 11	4.0	4.6		6.7～ 8.8		5.1～14	9.9		2～ 8	4	
	植田橋	H20	1.2～ 4.5	2.5	3.1		6.9～ 7.9		5.0～10	7.2		2～ 13	7	
		H19	1.1～ 8.1	2.6	2.5		6.9～ 8.8		3.4～17	7.3		3～ 16	9	
		H18	1.1～ 10	3.0	2.5		7.0～ 8.4		3.8～10	6.7		2～ 17	8	
		H17	0.9～ 5.9	3.1	3.6		7.1～ 7.6		1.4～10	6.3		3～ 25	10	
		H16	1.3～ 16	4.1	3.7		7.1～ 7.8		4.5～10	7.4		4～ 25	11	

(3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況

全亜鉛については、沢渡橋で平成 19 年度に、御厩橋で平成 16 年度に環境基準値を超過しているが、それ以外は環境基準値以下である（表 6-3）。

表 6 - 3 全亜鉛の状況（梅田川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小～最大	平均	N
梅田川	飛越橋	H20	0.002～0.003	0.003	4
		H19	0.009～0.028	0.019	4
		H18	<0.01～0.02	0.02	4
		H17	<0.01～0.03	0.02	4
		H16	<0.01～0.01	0.01	4
	沢渡橋	H20	0.011～0.040	0.022	4
		H19	0.014～0.069	0.039	4
		H18	<0.01～0.07	0.03	4
		H17	<0.01～0.05	0.02	4
		H16	<0.01～0.03	0.02	4
	御厩橋	H20	0.002～0.004	0.003	4
		H19	0.009～0.034	0.021	4
		H18	<0.01～0.03	0.02	4
		H17	<0.01～0.03	0.02	4
		H16	<0.01～0.07	0.04	4
	植田橋	H20	0.002～0.004	0.004	4
		H19	0.011～0.029	0.019	4
		H18	<0.01～0.02	0.01	4
		H17	<0.01～0.02	0.01	4
		H16	<0.01～0.01	0.01	4

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については28～29 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については18～19 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については5～7 程度である（表6-4）。

表6 - 4 水温の状況（梅田川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
梅田川	飛越橋	H20	29.2	18.5	6.0	12
		H19	27.7	19.1	8.6	12
		H18	29.3	18.4	8.9	12
		H17	30.3	19.3	7.1	12
		H16	27.6	17.8	6.5	12
		平均	28.8	18.6	7.4	-
	沢渡橋	H20	28.2	17.7	6.7	12
		H19	26.9	18.2	7.2	12
		H18	28.1	17.7	7.8	12
		H17	29.4	17.6	5.5	12
		H16	27.8	17.5	5.8	12
		平均	28.1	17.7	6.6	-
	御厩橋	H20	29.4	18.4	7.2	12
		H19	27.2	18.9	7.4	12
		H18	28.4	18.1	8.5	12
		H17	30.5	19.7	7.0	12
		H16	30.3	19.8	6.7	12
		平均	29.2	19.0	7.4	-
	植田橋	H20	30.0	17.8	5.0	12
		H19	26.9	18.0	6.8	12
		H18	28.2	17.7	7.1	12
		H17	30.6	17.8	4.2	12
		H16	28.6	17.6	4.0	12
		平均	28.9	17.8	5.4	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に砂や礫で構成されている。

(2) 主な河川構造物

梅田川においては、多くの落差工や堰が設置されているが、魚道は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

既存調査及び現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物B									
		オイカワ	フナ類	コイ	ドジョウ	ナマズ	トウヨシノボリ	ウナギ	ボラ	テナガエビ	モクズガニ
梅田川	飛越橋										
	高田橋										
	浜田川合流点										
	植田橋										

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

魚類の生息状況に関する情報は得られなかった。

6 産卵場及び幼稚子の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚子の生育場として保護が図られている区域はない。

7 汐川

1 水域の概況

汐川は、田原市南西に源を発し、北東へ流下し三河湾へ注ぐ、河川延長約9 km、流域面積約37 km²の二級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

汐川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表7-1のとおりである。

表7-1 環境基準類型指定状況（汐川）

水域名	区間	類型	環境基準点
汐川	全域	E	船倉橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、3～9 mg/l（75%値）で減少傾向で推移している（表7-2）。

表7-2 近年の水質の状況（汐川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH		DO (mg/l)			SS (mg/l)		
			最小 ～ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ～ 最大	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値	最小 ～ 最大	平均	基準 値
汐川 [E]	船倉橋	H20	0.9～ 3.5	2.0	2.5	10 以下	6.8～ 7.5	6.0 ～ 8.5	4.2～ 9.8	7.7	2 以上	12～ 87	37	ごみ等の浮遊が認められないこと
		H19	1.4～ 19	5.3	3.9		6.8～ 7.2		5.3～ 9.4	7.1		7～ 140	41	
		H18	1.8～ 13	6.0	7.3		6.9～ 7.3		4.0～ 8.4	6.6		10～ 100	34	
		H17	2.7～ 28	8.2	9.2		6.8～ 7.3		5.5～ 9.5	7.1		4～ 87	30	
		H16	1.4～ 15	7.0	9.4		6.9～ 7.3		5.1～ 9.6	6.8		6～ 93	46	

- (3) 全亜鉛（水生生物保全環境基準項目）の水質の状況
 全亜鉛については、環境基準値を下回っている（表7-3）。

表7-3 全亜鉛の状況（汐川）

水域名	調査地点	年度	全亜鉛（mg/l）		
			最小～最大	平均	N
汐川	船倉橋	H20	0.006～0.018	0.012	4
		H19	0.007～0.033	0.014	4
		H18	<0.01～0.02	0.01	4
		H17	0.01～0.01	0.01	4
		H16	<0.01～0.02	0.02	4

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については31 程度で、各年度の平均水温の最近5年間の平均値については19 程度、各年度の最低水温の最近5年間の平均値については8 程度である（表7-4）。

表7-4 水温の状況（汐川）

水域名	調査地点	年度	水温（ ）			
			最高	平均	最低	N
汐川	船倉橋	H20	32.0	19.2	8.5	12
		H19	30.0	18.4	8.9	12
		H18	30.5	18.7	8.7	12
		H17	31.7	19.1	5.8	12
		H16	32.1	20.1	7.3	12
		平均	31.3	19.1	7.8	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に礫や砂、河口部においては泥で構成されている。

(2) 主な河川構造物

汐川においては、堰などの河川構造物は設置されていない。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物B							
		オイカワ	フナ類	ドジョウ	トウヨシノボリ	ウナギ	ボラ	スジエビ	テナガエビ
汐川	幸田橋								
	赤松一本橋								

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

漁業権は設定されていない。

魚類放流場所

魚類の放流はしていない。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

汐川における魚類の生息状況について、赤塚山公園ぎょぎょランドからヒアリングを行った結果の概要は以下のとおりである。

・汐川にはアマゴは生育していない。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

8 大千瀬川

1 水域の概況

大千瀬川は、北設楽郡東栄町の山中に源を発し、東方へ流下し県境を越えて静岡県浜松市天竜区浦河付近で天竜川本川へ合流する、河川延長約 21km、流域面積約 272 km² の一級河川である（県知事が管理）。

2 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準類型指定状況

大千瀬川における環境基準類型指定状況及び水質環境基準点は、表 8-1 のとおりである。

表 8 - 1 環境基準類型指定状況（大千瀬川）

水域名	区間	類型	環境基準点
大千瀬川	静岡県境より上流	A A	常盤橋

(2) 水質の汚濁の状況

BODについては、環境基準を達成しており、1 mg/l 以下（75%値）で推移している（表 8-2）。

表 8 - 2 近年の水質の状況（大千瀬川）

水域名 [類型]	調査地点	年度	BOD (mg/l)				pH	
			最小 ~ 最大	平均	75 % 値	基準 値	最小 ~ 最大	基準 値
大千瀬川 [A A]	常盤橋	H20	<0.5 ~ 0.6	0.5	<0.5	1 以下	6.7 ~ 7.2	6.5 ~ 8.5
		H19	<0.5 ~ 0.9	0.6	0.5		6.6 ~ 8.0	
		H18	<0.5 ~ 1.0	0.5	<0.5		6.9 ~ 7.8	
		H17	<0.5 ~ 2.0	0.8	0.7		7.6 ~ 8.9	
		H16	<0.5 ~ 1.7	0.7	0.7		7.3 ~ 8.7	
	御殿橋	H20	<0.5 ~ 0.8	0.6	0.5		7.4 ~ 8.0	
		H19	<0.5 ~ 1.2	0.6	0.6		7.2 ~ 8.0	
		H18	<0.5 ~ <0.5	<0.5	<0.5		6.8 ~ 7.7	
		H17	<0.5 ~ 0.9	0.6	0.6		7.6 ~ 8.1	
		H16	<0.5 ~ 1.2	0.7	0.8		7.0 ~ 7.8	

水域名 [類型]	調査地点	年度	D O (mg/l)			S S (mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
			最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値	最小 ~ 最大	平均	基準 値
大千瀬川 [AA]	常盤橋	H20	8.8~13	11	7.5 以上	<1~3	1	25 以下	20~54000	5900	50 以下
		H19	8.6~13	11		<1~1	1		18~3300	840	
		H18	9.0~13	11		<1~5	1		45~13000	2700	
		H17	8.2~14	11		<1~2	1		110~17000	4100	
		H16	8.2~14	11		<1~4	2		23~11000	2100	
	御殿橋	H20	8.7~14	10		<1~7	2		13~2400	500	
		H19	8.8~13	11		<1~<1	<1		79~23000	5600	
		H18	8.6~13	10		<1~4	1		20~2300	790	
		H17	7.7~14	10		<1~1	1		45~7900	1800	
		H16	8.5~13	11		<1~<1	<1		170~4900	1800	

(3) 全亜鉛 (水生生物保全環境基準項目) の水質の状況

全亜鉛については、環境基準値を下回っている (表 8-3)。

表 8 - 3 全亜鉛の状況 (大千瀬川)

水域名	調査地点	年度	全亜鉛 (mg/l)		
			最小~最大	平均	N
大千瀬川	常盤橋	H20	<0.001~0.005	0.003	4
		H19	<0.001~0.001	0.001	4
		H18	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H17	<0.01~<0.01	<0.01	4
		H16	<0.01~0.05	0.02	4

3 水温

各年度の最高水温の最近5年間の平均値については24～25程度で、平均水温の最近5年間の平均値については13～14程度、最低水温の最近5年間の平均値については3程度である(表8-4)。

表8-4 水温の状況(大千瀬川)

水域名	調査地点	年度	水温()			
			最高	平均	最低	N
大千瀬川	常盤橋	H20	23.5	13.3	2.1	12
		H19	24.3	13.5	2.5	12
		H18	24.1	13.7	5.0	12
		H17	26.1	14.8	1.2	12
		H16	25.0	14.4	2.0	12
		平均	24.6	13.9	2.6	-
	御殿橋	H20	24.0	13.3	2.4	12
		H19	22.5	12.6	3.0	12
		H18	25.0	13.0	4.0	12
		H17	24.9	14.2	2.3	12
		H16	23.4	13.8	2.1	12
		平均	24.0	13.4	2.8	-

4 河床構造等

(1) 河床構造

河床は、主に岩盤や石で構成されている。

(2) 主な河川構造物

大千瀬川においては、振草頭首工が設置されており、魚道も設置されている。

5 魚介類の生息状況

(1) 調査結果

現地調査により、以下の魚介類が確認されている。

水域名	調査地点	生物A	生物B			
		アマゴ	ウグイ	オイカワ	コイ	ドジョウ
大千瀬川	御殿橋					
	浄水公園					
	常盤橋					

(2) その他関連情報

漁業権設定状況

大千瀬川全域で漁業権(アマゴ、オイカワ、ウナギ、アユ)が設定されている。

魚類放流場所

振草川漁業協同組合がウナギとアユを大千瀬川全域に放流している(支川でアマゴを放流)。

漁業協同組合等へのヒアリング結果

大千瀬川における魚類の生息状況について、振草川漁業協同組合、赤塚山公園ぎょぎょランド、愛知県水産試験場内水面漁業研究所からヒアリングを行った結果は以下のとおりである。

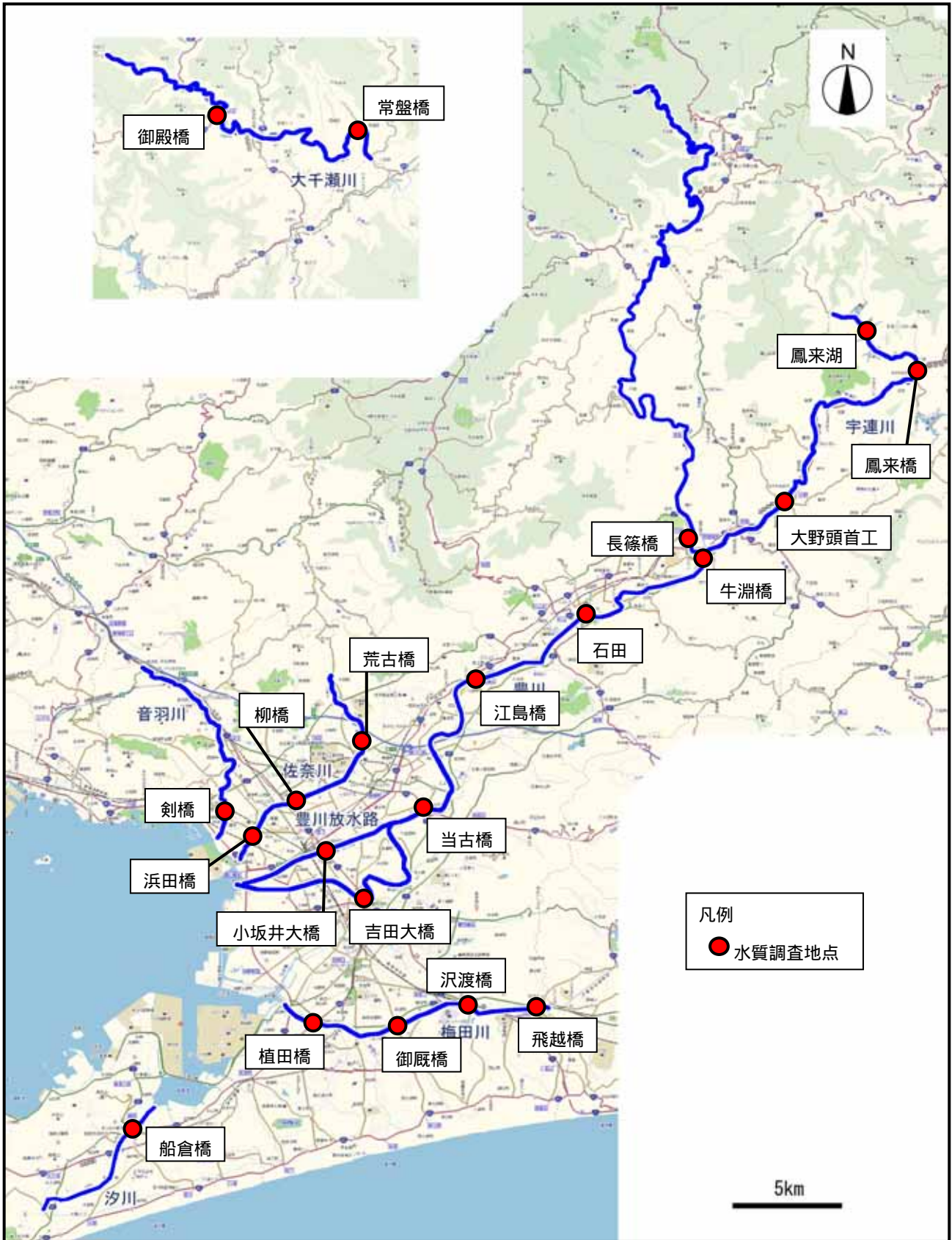
- ・アマゴは大千瀬川全域に生息しており、再生産している。
- ・漁獲対象種はアマゴ、ウナギ、コイ、オイカワ、アユなど。

6 産卵場及び幼稚仔の生育場

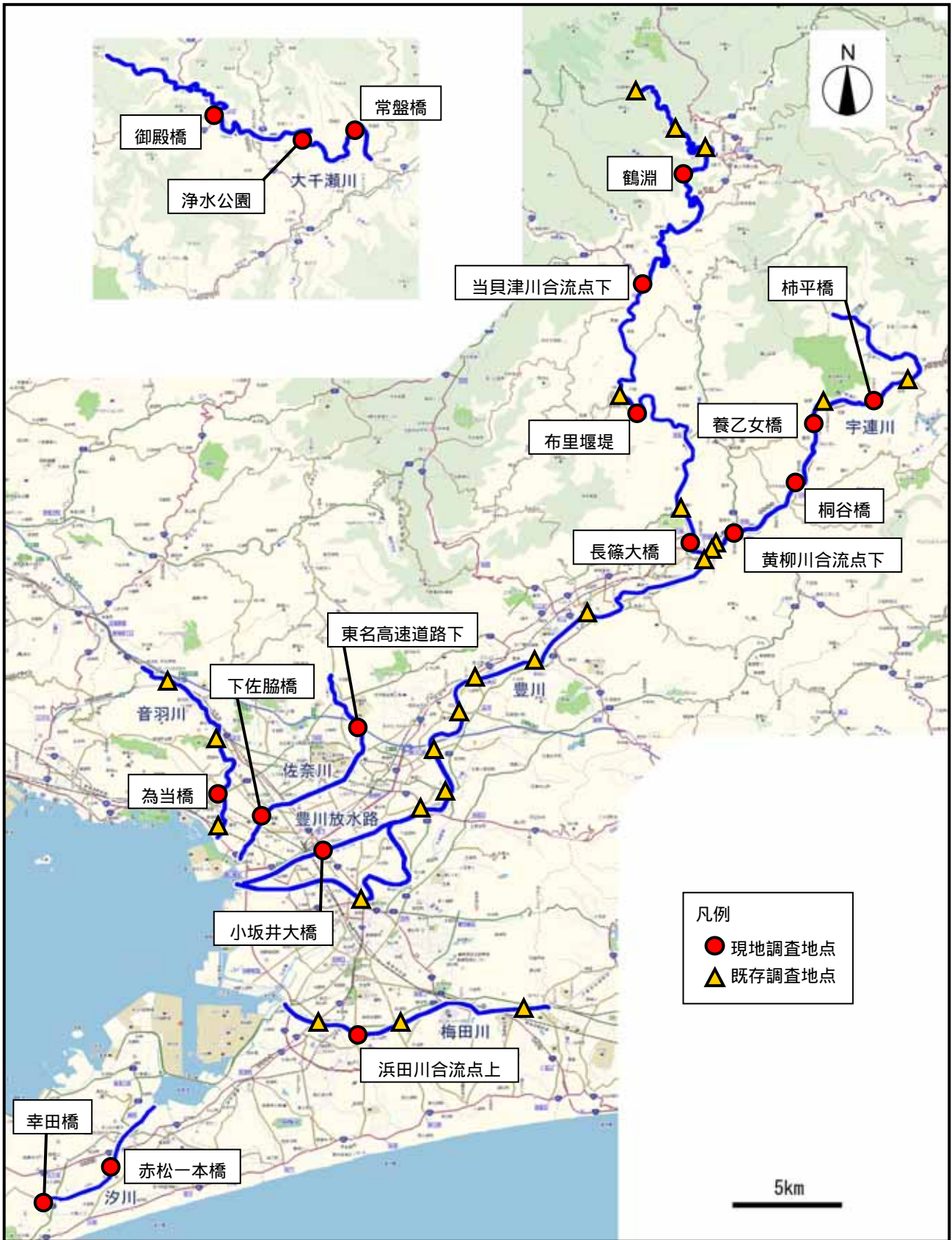
水産資源保護法に基づく保護水面の設定はない。また、生物A及び生物Bの魚類について、産卵場又は幼稚仔の生育場として保護が図られている区域はない。

【既存調査資料】

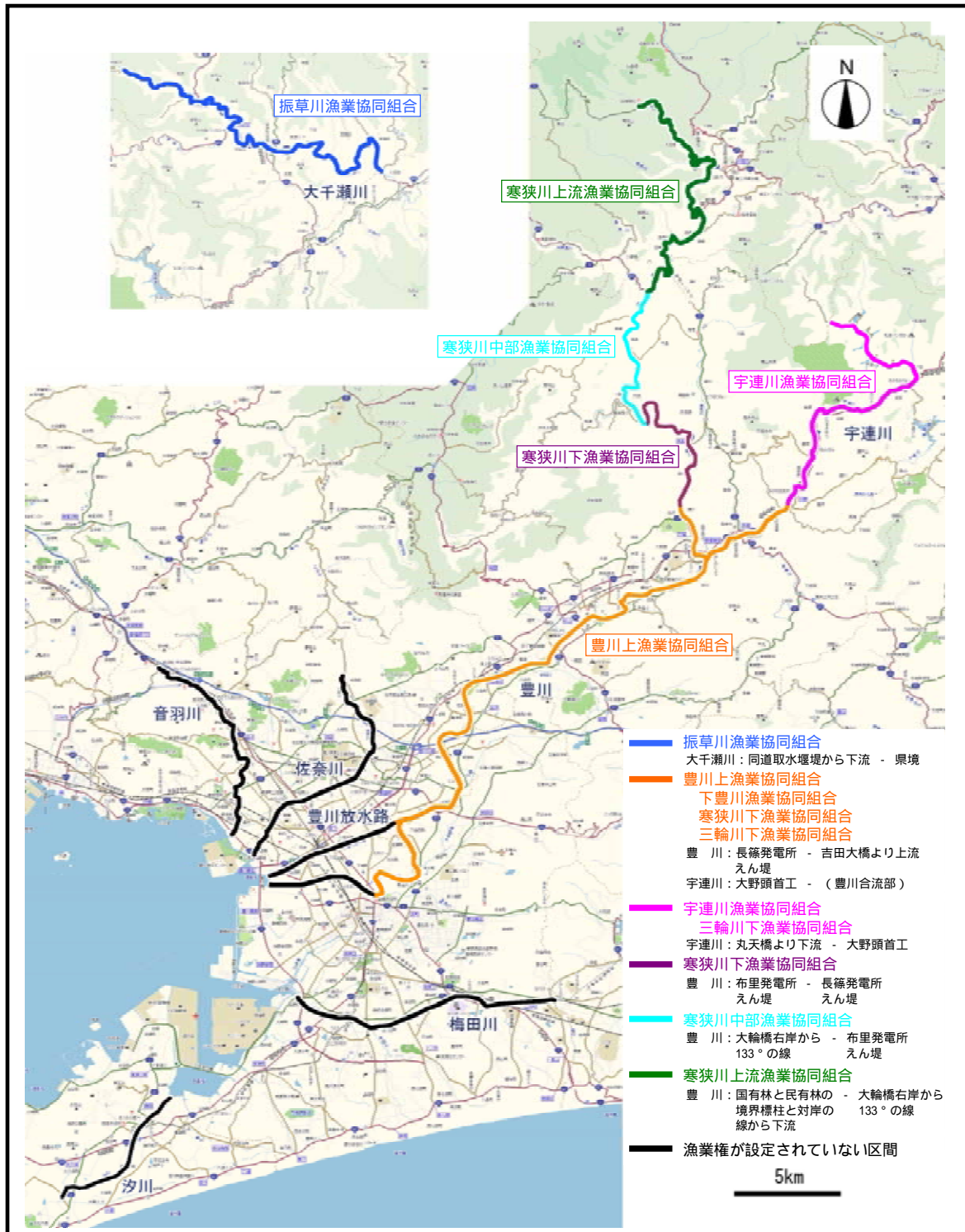
- ・「平成14年度 豊川河川水辺の国勢調査(魚介類・底生動物)報告書」(平成16年2月 国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所)
- ・「平成15年度 河川環境対策工事・河川調査事業合併工事の内調査業務委託(河川水辺の国勢調査・魚介類調査)報告書」(平成16年2月 愛知県新城設楽建設事務所)
- ・「平成16年度 河川環境対策工事の内水辺の国勢調査業務委託(音羽川・梅田川魚介類調査)報告書」(平成17年1月 愛知県東三河建設事務所)
- ・「河川環境対策工事の内魚類調査及び魚道設置検討業務委託報告書」(平成19年3月 愛知県新城設楽建設事務所)
- ・「平成15年度 とよかわ調査報告書(第9回)」(平成16年3月 赤塚山公園ぎょぎょランド)
- ・「平成16年度 とよかわ調査報告書(第10回)」(平成17年3月 赤塚山公園ぎょぎょランド)



豊川等水域及び天竜川水域における公共用水域水質調査地点



水生生物調査地点



備考： の「下豊川漁業協同組合」「寒狭川下漁業協同組合」「三輪川下漁業協同組合」、および の「三輪川下漁業協同組合」は共有者（又は入漁者）である。
 出典：「漁業権一覧表」（平成 16 年 1 月 1 日現在・愛知県農林水産部水産課）より作成

調査対象水域における内水面漁業権